



たたえる  
**讃**

**富岡 勝則**

皆さんこんにちは。

今年は前夜祭も復活し、8月3日(金)から5日(日)の3日間にわたり開催された彩夏祭ですが、天候にも恵まれ、たくさんの方にご来場いただくことができました。ご協力をいただきました皆様に心から感謝申し上げます。

さて、7月27日(金)から17日間にわたりイギリスのロンドンで開催された第30回夏季オリンピックでは、日本代表選手の皆さんが、さまざまな競技でたくさんの感動を与えてくれました。日本のメダル獲得数は史上最多の38個と、多くのメダルを日本に持ち帰ってくれましたが、なかでも陸上自衛隊朝霞駐屯地内にある自衛隊体育学校から出場したレスリング女子48kg級の小原白登美選手とレスリングフリースタイル66kg級の米満達弘選手が金メダル、レスリングフリースタイル55kg級の湯元進一選手とボクシングバンタム級の清水聡選手が銅メダルに輝くなど、

朝霞市にゆかりのある皆さんが大活躍してくれて、とてもうれしく思いました。ロンドンとは8時間の時差があり、深夜から早朝にかけて行われた競技も多かったため、テレビで熱心に応援された方は、毎日寝不足気味だったのではないのでしょうか。

オリンピック終盤の8月10日(金)早朝には、朝霞第一中学校出身で、陸上競技では戦後最年少での出場となった土井杏南選手が、女子4×100メートルリレー予選に出場しました。私は、コミュニティセンターホールのパブリックビューイングで、土井さんの祖母のかよ子さんや早朝にもかかわらず応援に駆けつけてくれた約200人の皆さんと一緒に、力いっぱい声援を送りました。第1走者として出場した土井選手は、得意のスタートからぐんぐんと加速し、堂々とした素晴らしい走りを見せてくれました。日本チームは、重圧のかかるレースだったせいか、あうんの呼吸が乱れてしまいバトンがスムーズにつながらず、残念ながら決勝に進むことはできませんでしたが、彼女にとって次につながる大きな経験になったと思います。朝霞で生まれ育った土井選手が、オリンピックという夢の舞台で世界に羽ばたいてくれました。4年後はまだ20歳です。ブラジルのリオデジャネイロで開催される次のオリンピックでは、女子100メートルで活躍してくれることを期待しています。ではまた。

## 朝霞市は男女平等を進めています

男女の間で考え方や意見が違うとき、そこにはそれぞれの「言い分」があることも。お互いが相手の目線で考えることができたならよりよい関係が築けるのでは…そんな思いをこめて、このコラムではさまざまなライフステージでの男女の言い分を、男女平等推進事業企画・運営協力員が身近にいる男女にインタビューして紹介します。

今回のテーマは、「子育てで観からみる父親の言い分」です。

イクメンという言葉が市民権を得た昨今ですが、身近にいる子育て中の20代～50代の父親に2つの質問をしてみました。まずは「主観的に見て、子育てとしてやるべきと考えていることの何%ぐらいに関われていると感じていますか？また、それは具体的にどんなことですか？」

子どもの年齢が低い父親ほど割合は低く平均で30%以下に、子どもが中高生以上になると50%と回答する人が増えよく関わっていると感じているようです。

具体的な関わり方としては、授乳中の赤ちゃんだと父親のできる範囲は限られてしまうこともあるようですが、幼児から小学生になると保育園の送り迎えや入浴、遊び、勉強などが

## ～一緒に考えていこうよ⑤～

増え、さらに中高生以上になると学費など経済的な役割、父親として叱る、学校の行事に参加するなど挙げられました。若い父親の中には、「妻の親から期待される『イクメン像』のプレッシャーもあり、これ以上仕事が忙しくなると厳しい。」との意見もありました。また、たまの妻の自由時間の時は、2人の子どもの面倒は見きれないので自分の親のところへ行き、親孝行(?)しながらラクをしているチャッカリ派も…。

続いて「子育てにおいて、パートナーに望むことは？」の質問には、「(子育てに忙しいのはわかるけど)もう少し部屋を片付けて。」「(父親が)しつこく子どもを叱っている時は黙っていて、後で子どもをフォローしてほしい。」「子どもを叱る時は感情的にならず、短く叱った方がよい。」などでした。

赤ちゃんが母親でなければイヤという時期があったり、父親も育児に多く関わられるくらいに子どもが成長すると会社では仕事を優先せざるを得ないような立場になっていたりと、子育ての大切さを感じつつも葛藤が多いようです。でも、関われないときにも、家事などの間接的なサポートやパートナーへのいたわりの言葉など、ちょっとした行動と気配りで相手に大きな喜びと元気が生まれるのではないのでしょうか？

(次回のテーマは

「子育てで観からみる母親の言い分」です。)

\*このコラムは、「朝霞市男女平等推進事業企画・運営協力員」との協働により掲載しています。

☎/人権庶務課 ☎2255 ☎463-2697

### ひとの推移

人口	13万1,618人 (-131人)	世帯数	5万9,702世帯
男	6万7,101人 (-101人)		(-144世帯)
女	6万4,517人 (-30人)	平成24年8月1日現在( )内は前月比	